



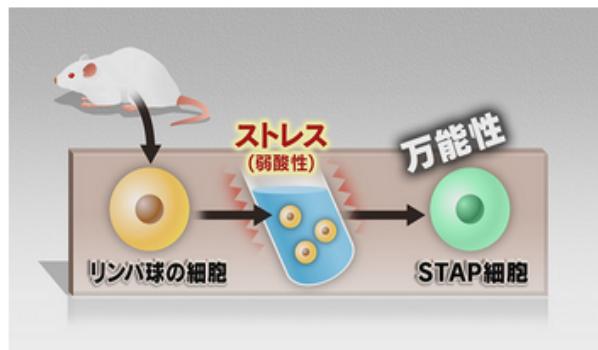
平成 26 年 5 月 20 日

## 話題になった新研究

院長 三和敏夫

去年の今頃、いや 1 ヶ月前の新聞記事等の報道では何が注目を集めていたかとすぐに思い出させる記憶がうすれてきています。それには加齢もあり自己をとり囲む環境、ニュースが多すぎる様です。

閑話休題。日本国内全体を騒がせ更に最も権威ある英国の科学雑誌「ネーチャー」に論文を載せた日本の某女性研究者（理学博士）。その研究発表は「STAP 細胞」の產生する未知の研究らしい。発表後マスコミに連日連夜話題となり、理化研究所や某大学等その研究者仲間まで事実の信憑性疑う論議が繰り返され、舞台裏の知らなくてもよい恥部的な事柄も続出し今は裁判沙汰になりそうらしい。マスコミを通じて見聞する我々には本当にその細胞形成を成功したのか、類似な事例か、或いははるかかけはなれているが売名行為なのかあいまいのまま。世間の期待と興味津々なので時間をかけてでも明白にしてほしいものです。



ちなみにSTAPとは「刺激がきっかけで、いろんなものになれる力を手に入れた」という意味の英語「Stimulus-Triggered Acquisition of Pluripotency」を短くしたものだ。

論文では、マウスのリンパ球の細胞を使った実験で、細胞を弱い酸性の液体に浸すというストレスをかけることで「STAP細胞」ができたとしています。

こうした単純な操作で、どんな細胞にもなれる「万能性」を持つ細胞ができるることは、常識を覆すものだとして世界の研究者を驚かせました。



岐大柔道部 OB 同門会一同  
(高橋部長の祝賀会)



孫に囲まれて古希の祝宴